

A 176 「健康食品」に関する研究(第1報) — 「健康食品」の分類 —

山一證券(株)栄養管理センター ○伊藤至乃 岩間範子
 東京家政学院大家政 新城光代 羽田明子

目的 いわゆる「健康食品」は、商業ベースでの開発が先行し、今や商品分類として定着した観があるが、科学的根拠が示されないまま非科学的健康獲得法へと流れてしまっている。そこで、どのようなものが「健康食品」として市場に出回っているのかを調査・分析し、アンケート調査のための分類を試みた。

方法 東京都内の健康食品展示会場及び東京近郊のデパートの健康食品売場より入手した、728種類の「健康食品」に関する資料・試供品等を用いて分析を行った。

結果 図1～6に示したように、形状は粒状が55%、粉状が13%であった。使用方法別にみると、そのまま使用が59%と多く、他の食品に添加するが21%、調理するものが16%であった。栄養素の種類は、ビタミン類が47%、ミネラル類が35%、蛋白質類が14%と多いのに対して繊維は2%であった。主要原材料は穀類が21%で、砂糖、果物、大豆、菌類、油、魚、肉、海藻、芋等が1～9%であった。栄養素の種類の数合わせ数は3～6種類が50%で、主要原材料の組合わせ数は単品のものが50%であった。

多くの「健康食品」は、主要原材料や栄養素の点からみると類似したものが多かった。この結果に基づきアンケート調査のための分類として15グループにまとめた。

図1. 形状



図3. 栄養素の種類



図5. 栄養素の種類・組合わせ数



図2. 使用方法



図4. 主要原材料の種類



図6. 主要原材料の種類・組合わせ数

